

歴史愛好会 10 月 苦労の新田開発の跡と神社（道徳地区）

総務委員会 広報

10 月 23 日（金）午前 9 時 45 分に道徳駅に集合し、歴史愛好会の鏡味代表の案内で道徳地区を 1 時間ほど散策しました。

道徳駅を出発点とし、東昌寺までの道のりを、道徳公園⇒山神社⇒観音公園⇒東昌寺 の順に巡りました。道徳公園に設置された碑によると、江戸時代に鷲尾善吉の新田開発から始まり道徳の街ができる歴史は以下の様になっています。

1817 年 開発開始 → 1821 年 新田完成 → 善吉の破産・新田譲渡 → 度重なる高潮・堤防決壊 → 尾張藩による大修築 → 明治維新 → 徳川家所有地 → 1925 年 新田開放 → 市街地化

道徳公園にあるクジラ池噴水は 1927 年コンクリ造形家後藤鉄五郎が作ったもので、2021 年国の登録有形文化財になりました。かつてこの地が海だったことを表現しています。

市街地化してから道徳の発展は目覚ましく、紡績工場などの工場も設置され、通りはにぎやかで、道徳公園は太秦のような映画の撮影所だったとか。温泉娯楽施設もあり、観音公園は昔はレジャーランドで大きな観音山があり、プール、スケートリンクもあったようです。観音山のふもとにあった観音像は近くの東昌寺に修復して祀られてました。今回の散策で普段は気付かない郷土の歴史に触れることができ、大変勉強になりました。



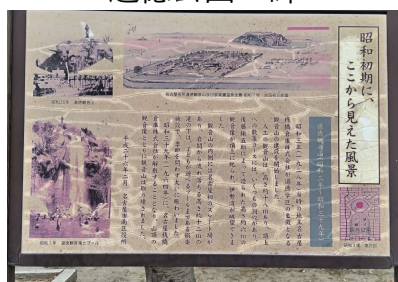
道徳公園の碑



道徳公園のクジラ池噴水



観音公園



観音公園の揭示



東昌寺の観音